

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777 (通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
単元株式数	100株

ご注意

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807
URL www.shizuki.co.jp



株主通信

第91期 報告書
2018年4月1日～2019年3月31日

メッセージ

事業の強化、確立、創出。
技術のシヅキが打ち立てる、
3本の柱。



証券コード 6994 / 東証二部

株式会社 指月電機製作所



AIM2018 事業領域の10ドメイン



今回の主なトピックス

代表執行役社長の交代

2019年4月に代表執行役社長に足達信章が就任し、これまで代表執行役社長を務めてまいりました伊藤薫が執行役会長に就任いたしました。

長期経営ビジョン・新中期経営計画の発表

長期経営ビジョンの実現に向けて、新しい中期経営計画を策定いたしました。

→ 詳しくはP5-P8をご覧ください

80周年、そして、新しい時代の幕開け。 「挑戦する企業風土」への変革を。

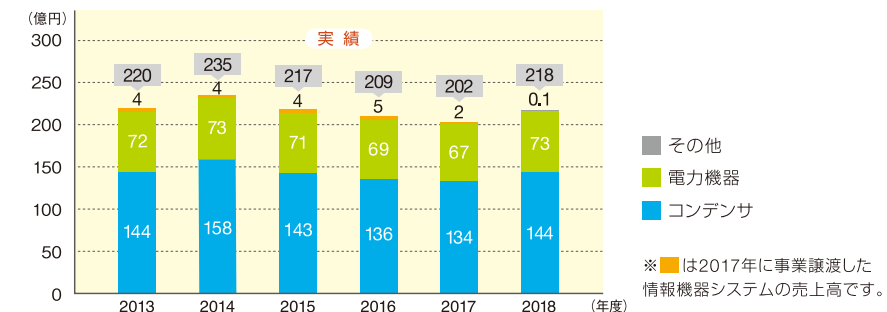
2019年3月10日、指月電機製作所はおかげさまで、創業80周年を迎えました。これまで長きにわたってご支援を賜ってきた株主の皆さまに、心より感謝を申し上げます。私は4月1日をもって代表執行役社長に就任し、奇しくも翌5月には改元を迎え、令和という新しい時代が幕を開けました。私たちシヅキも、新たなスタートに向かって「長期経営ビジョン」と「新中期経営計画」を掲げ、社員が丸となって改革に取り組もうとしています。

平成31年3月期を振り返れば、米中の経済摩擦をはじめ世界経済の動向は依然として予断を許さない状況ではありますが、わが国の経済においては、所得や雇用の改善、設備投資の持ち直しなどの動きが見られました。このような状況のもと、シヅキでは「次世代自動車用コンデンサ」や「力率改善装置」などが好調に推移し、連結売上高は217億6千1百万円(前年同期比7.9%増)となりました。社員たちの粘り強い努力によって減収に一定の歯止めがかかり、復調、そして、次なる成長への兆しが見えてきた。そんな手応えを得られた1年でした。

しかしながら、営業利益11億1千4百万円(前年同期比8.6%減)という数字が示すように、原材料費の増大や価格競争の激化など、取り組むべき課題はまだまだ山積しています。一人ひとりが挑戦できる企業風土を醸成し、新たな時代へと、力強い一歩を踏み出してまいります。

代表執行役社長 足達 信章

売上高実績と計画





事業の強化、確立、創出。 技術のシヅキが打ち立てる、3本の柱。

「技術のシヅキ」の復活。そんな強い想いをもとに、2019年1月「指月R&Dセンター」を竣工しました。次世代自動車用コンデンサや産業用コンデンサの新たなニーズに応え、圧倒的な技術力と競争力を生み出していく。私たちは今、新たな研究開発拠点とともに、次なる成長を支える3本の柱を打ち立てようとしています。

強化

産業機器事業で、 世界に冠たるコンデンサメーカーへ。

太陽光発電や変電所の設備、電鉄車両など、シヅキが「産業機器事業」として位置づける商品群は、幅広い領域を包括しています。電力インフラの整備が進む地域では、電気をより効率的にコントロールしたいというニーズが高まっており、シヅキが日本国内で培ってきた圧倒的な技術力、品質、供給力、カスタマイズ力、コスト対応力などに対する期待も高まっています。

その一つひとつをさらに磨き上げ、グローバル・ナンバーワンの域にまで高めていくこと。これまで重点事業として経営の柱となってきた産業機器事業の、次なる挑戦です。

電力機器事業の国内トップシェアを貫き、 海外でのシェア拡大をはかる。

シヅキのもうひとつの強化事業である「電力機器」。工場やビル、公共施設、商業施設などの電力受配電用コンデンサ・リアクトルや、電気障害のひとつ高調波を抑えるフィルタ設備をとおして、これまで数多くの施設を支えてきました。国内市場においては50%を超えるトップシェアを誇り、これからもそのシェアを堅持するとともに、設計や販売体制のさらなる見直しにより、収益性の維持・増進に努めてまいります。

海外市場においては東南アジア各国をはじめ、国ごとの法規制や電力インフラを取りまく環境にあわせながら、ターゲットとする国・地域にあわせた販売戦略のもと、シェア拡大をはかっていきます。



確立

xEV(次世代自動車)を、 成長の牽引力となる主幹事業へ。

電気自動車をはじめとする次世代自動車用コンデンサ。市場としてはまだ黎明期にありますが、従来のガソリン車からxEVへのシフトが世界的な潮流となりつつある中、今後の急速な市場拡大が見込まれます。

シヅキは其中で確固たるポジションを築くべく、新しい研究開発拠点である指月R&Dセンターを活かした新工法・新素材の開発や、業界をリードする小型化・高耐熱化の実現にスピード感をもってチャレンジするとともに、さらなる増産を見据えて、生産設備の増強や人員の確保、育成に努めています。



創出

環境・省エネ分野で、 新たなニーズを捉え、事業化へ。

シヅキではこれまでも、雷などによる瞬時電圧低下から生産ラインを守る「瞬低補償装置」や、再生エネルギーを利用して省エネや停電時の電力供給に役立てる「パワーマネジメント装置」など、独自性の高い商品を通して環境・省エネ対策につながるソリューションをお届けしてきました。

こうした活動を、新たな事業の創出と位置づけ、開製販が一体となったマーケティングによって積極的にお客様の抱えるニーズを捉え、それに応える新たなアイデアと技術を生み出していきます。

分野も事業規模もそれぞれ違う3本の柱を、同時に発展させ、次の成長力を生み出していく。そこに関わる一人ひとりが誇りをもって、大きな目標に挑もうとしています。



社長交代のご挨拶・長期経営ビジョン

代表執行役社長 交代

長期経営ビジョン・新中期経営計画 発表

挑戦する社風を、 全社員でつくり上げる

2019年3月、指月グループは創業80周年という大きな節目を迎えました。

翌4月には、代表執行役社長に

足達信章(前・執行役副社長)が就任し、

これまで代表執行役社長を務めてまいりました

伊藤薫が執行役会長に就任いたしました。

そして今、新たなスタートに向かって

「長期経営ビジョン」と「新中期経営計画」を掲げ、

社員が一丸となって改革に取り組もうとしています。



80周年ロゴマーク

新たな経営ビジョンと計画の実現に向かって社員の想いをひとつにするため、80周年のロゴマークを作成。シヅキを起点にコンデンサが社会へ広がっていくイメージや、未来へ向かって再出発するという決意を電源マークで表現しています。



バトンを手渡すのではなく、 ゼロからのスタート

執行役会長 伊藤 薫

株主の皆様には、これまで並々ならぬご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。私はこの株主通信のなかで、水泳や陸上競技のリレーを例えに挙げて、めざすべき組織の在り方を述べたことがあります。バトンを渡すまでに併走する期間を設けられる陸上リレーのほうが、チームとして大きな成果をめざせると。しかしこの度の社長交代において、私にはバトンを手渡すという感覚はありません。指月グループの社員たちには、足達新社長のもとで、ゼロからのスタートのつもりで変革を成し遂げてもらいたいという想いがあります。

新しい長期経営ビジョンは、「挑戦」という言葉から始まります。これは社員たちが自ら考えて掲げた言葉です。「挑戦したい」という意志をもった社員がいる限り、皆様から「シヅキは変わったね」と驚き、喜んでいただける日は必ず来ると信じています。

お客さま第一と人間性尊重を両立させる、 新たな道を

代表執行役社長 足達 信章

この度、代表執行役社長に就任いたしました足達信章と申します。私は1983年に入社し、営業統括・技術統括・マーケティング・品質などの部門長、東京支社長、秋田指月の代表取締役などを務めてまいりました。指月グループは、創業以来長きにわたって「お客さま第一主義」を貫くとともに、社には「人間性尊重の精神」を第一に掲げ、働く一人ひとりのやりがいを大切にしてきました。こうした理念は普遍的なものとして、これからもしっかりと受け継いでいきたいと思えます。

しかしその理念を実現させるための方法については、まさにゼロからのスタートという覚悟をもって、お客様にとっても、グループの社員にとっても、より魅力的な組織をつくり上げていきたいと考えております。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



指月グループ 長期経営ビジョン

— 10年後の指月グループのあるべき姿 —

挑戦する社風へと変革し、
品質第一のモノづくりと、
未来を見据えた新技術・新商品の開発、
グローバルな事業展開の推進により、
社員の夢を実現し社会に貢献する
企業グループになる

2019年度をスタート年とし、2028年度を最終年とする10年間の「長期経営ビジョン—10年後の指月グループのあるべき姿—」。そして、そのビジョンを実現するための「5つの指針」を、社員たちが話し合いを重ね、ボトムアップで作成いたしました。

長期経営ビジョンの実現に向けた5つの指針

指針

- 1 挑戦する意欲と行動を評価し、挑戦する社員を育成・サポートする会社
- 2 独自の品質管理体制を構築し、品質第一の覚悟を持つ会社
- 3 コンデンサ技術をコアとし、未来を見据えた新技術・新商品を開発する会社
- 4 積極的に海外へ展開するグローバルな会社
- 5 社員一人一人の人生・生活を大切に、仕事のやりがいを提供する会社

新中期経営計画

新中期経営計画

長期経営ビジョンの実現に向けて、中期経営計画を策定いたしました。本年度をスタート年とし、大きく3つの期に分けて計画を展開してまいります。

長期経営ビジョン〈2019～2028年度〉

新中期経営計画

第Ⅰ期
2019～2021年度

第Ⅱ期
2022～2024年度

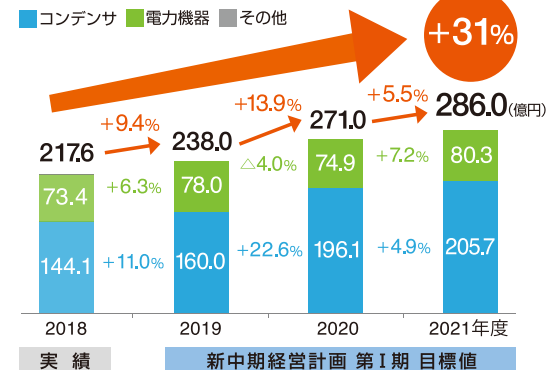
第Ⅲ期
2025～2028年度

第Ⅰ期においては、3-4ページでご紹介した「産業機器」「電力機器(力率・品質改善)」「自動車機器(xEV)」「環境・省エネ機器」の事業推進を重点施策として、10年後のあるべき姿、そして、100年企業に向けた経営基盤の確立に努めます。第Ⅱ期・第Ⅲ期では、その確固たる基盤のうえでグローバル競争力を高めるとともに、開発・営業・製造が一体となってさらなる価値の創出に挑み、より大きな社会貢献を果たしてまいります。

数値目標

[連結売上高・利益]	(億円)			
	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	217.6	238.0	271.0	286.0
営業利益	11.1	12.4	14.8	17.6
営業利益率(%)	5.1	5.2	5.5	6.2
親会社株主に帰属する当期純利益	7.0	7.1	10.0	11.3
当期純利益率(%)	3.2	3.0	3.7	4.0
ROA(%)〈総資産経常利益率〉	4.5	4.9	4.4	4.8
1株当たり当期純利益(円)	21.1	21.5	30.3	34.3

セグメント別売上高目標値



重点施策(事業推進)

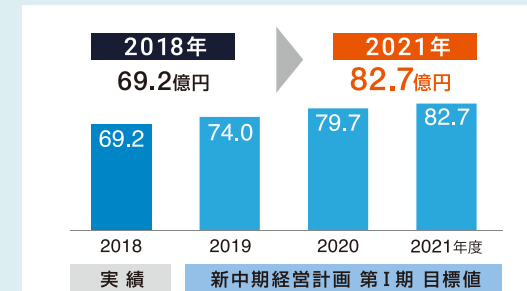
コンデンサ

1 産業機器

技術開発とカスタマイズ力強化により、No.1コンデンサメーカーとなる。

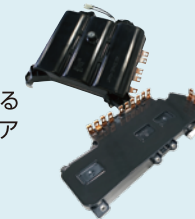


売上高目標(連結)

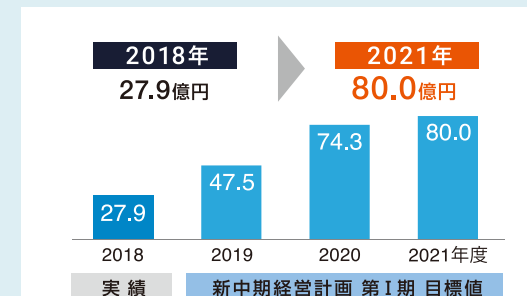


2 自動車機器(xEV)

ターゲット顧客に対して細部にわたる要求を実現し、ターゲット顧客内シェアを60%以上獲得する。



売上高目標(連結)



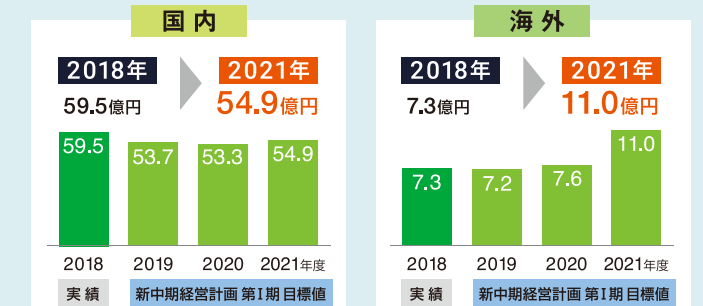
電力機器

1 電力機器(力率・品質改善)

国内市場: トップシェアを維持し、利益を確保する
海外市場: ターゲット国に対する販売戦略を見直し、シェア拡大を図る。



売上高目標(連結)

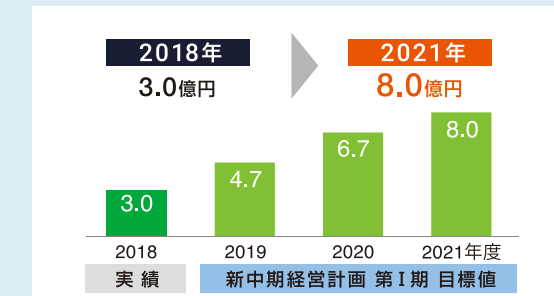


2 環境・省エネ機器


開製販が一体となったマーケティングを推進し、新たな市場を創出する。大手の狙わないニッチ需要にフォーカスし、その分野のNo.1を目指す。



売上高目標(連結)




指月R&Dセンター 竣工



2019年1月23日、シヅキの新たな研究開発拠点となる「指月R&Dセンター」(兵庫県西宮市)の竣工式を執り行いました。地球環境保護の観点から需要が急速に高まる「次世代自動車」、電気の効率的利用・省エネに向けてインバータ化が進む「グローバル産業機器」をはじめ、刻一刻と変化するコンデンサのニーズをいち早く捉え、新素材研究や新商品の開発を加速していきます。


佐賀大学との産学連携共同研究



再生可能エネルギーの普及とともに、電力システムのフィルタ回路で使用される「リアクトル」の性能向上が課題となっています。シヅキは低騒音・低損失リアクトルの最適設計をめざし、佐賀大学と共同研究の契約を締結しました。佐賀大学のもつ磁界解析技術を活かしてリアクトルの騒音・損失を下げる最適値を追求し、シヅキの技術と融合をはかることで、さらなる性能向上に努めてまいります。

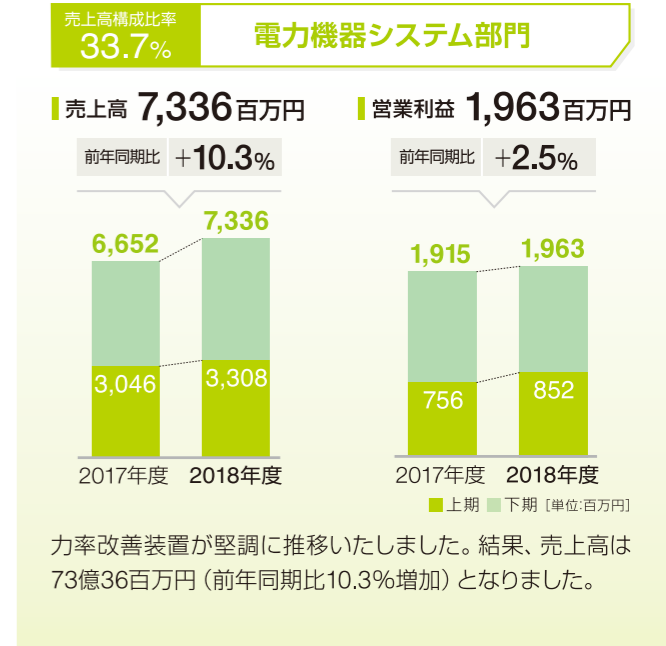
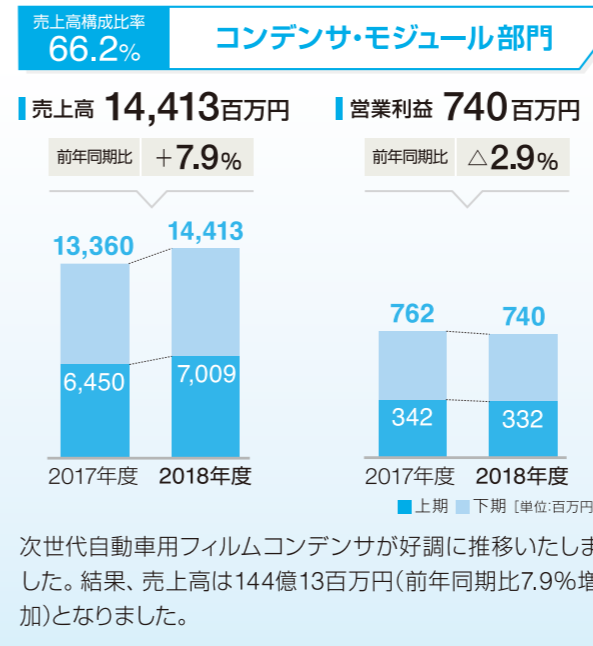
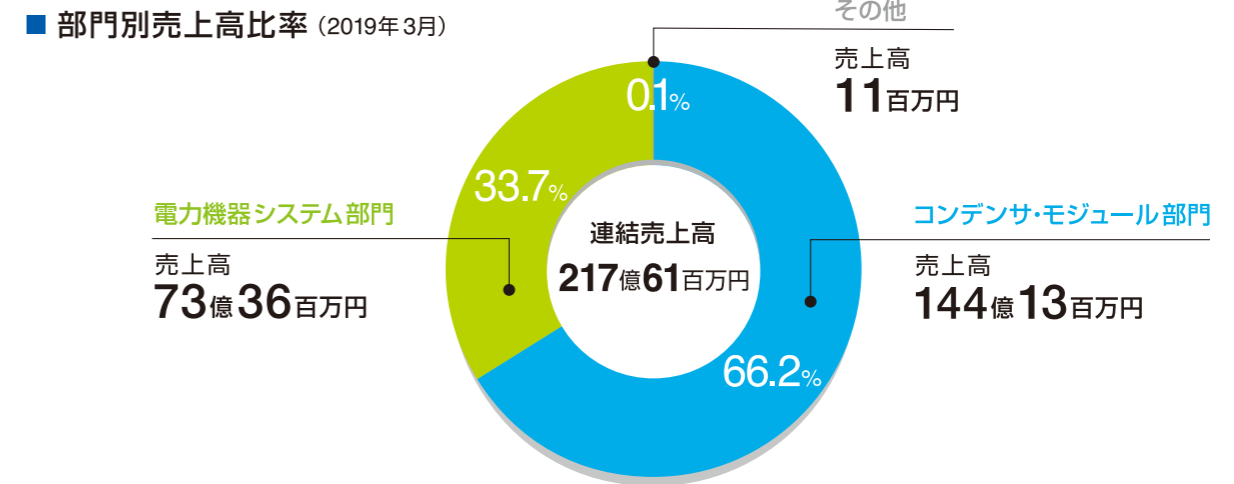
乾式モールド直列リアクトル
Type:LR-MB

電機工業技術功績者表彰 優良賞受賞



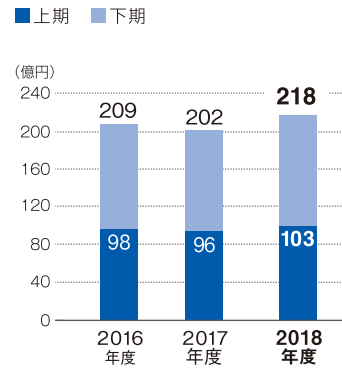
2019年度(第68回)電機工業技術功績者表彰において、「瞬低補償装置 SAG-Backupシリーズ」の小型・低コスト化が功績として評価され、優良賞を受賞いたしました。この表彰事業は、「技術の向上と合理化意欲を刺激し業界の発展に資する」ための活動として、一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)によって運営され、電機工業の進歩発達に貢献した功績者への表彰を行っています。

SAG-Backup

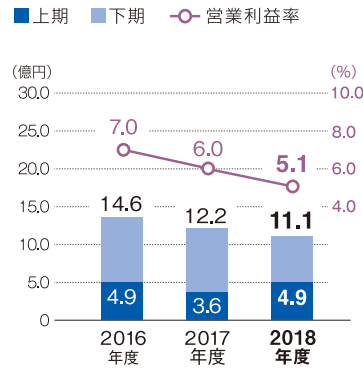


※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報機器システム事業であります。
 ※セグメント別の営業利益については、調整額△1,594百万円があります。(セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用)

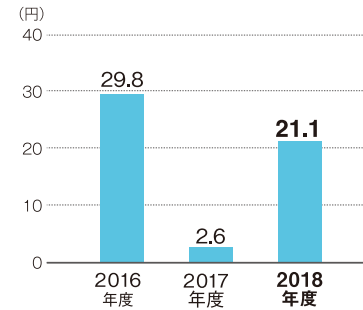
売上高



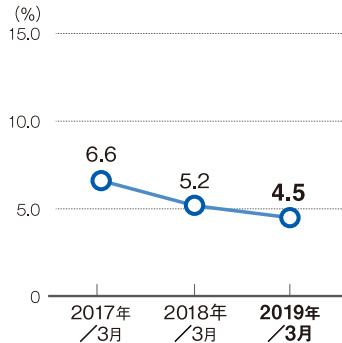
営業利益・営業利益率



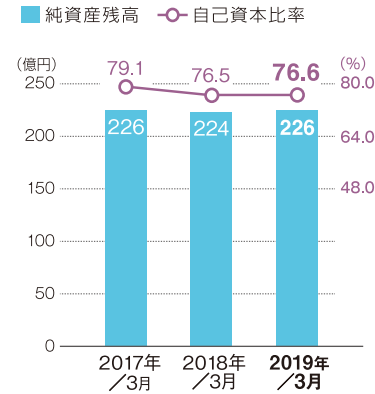
1株当たり利益(EPS)



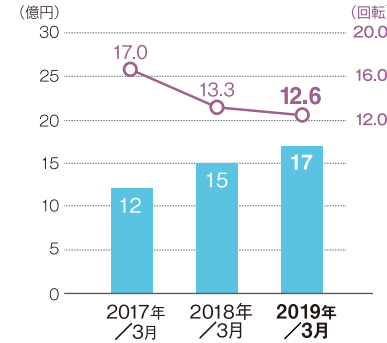
総資産経常利益率(ROA)



純資産残高・自己資本比率



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



Point

業績面では連結売上高は前年同期比7.9%の増収となりました。営業利益、経常利益ともに、材料や素材のコストアップや競争激化に伴う価格下落等の影響により減益となりましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は増益となりました。財務面では自己資本比率は76.6%となり、依然として健全な財務体質を堅持しております。

(注)十万円の位を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第90期 期末 2018年3月31日現在	第91期 期末 2019年3月31日現在
資産の部		
流動資産	15,424	14,893
現金及び預金	6,594	4,789
売上債権	7,051	8,321
棚卸資産	1,519	1,723
その他資産	259	58
有形固定資産	11,253	12,194
無形固定資産	86	103
投資その他の資産	2,109	1,896
資産合計	28,874	29,087
負債の部		
流動負債	4,295	4,543
固定負債	2,196	1,933
負債合計	6,492	6,477
純資産の部		
株主資本	19,888	20,221
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	4,276	4,276
利益剰余金	10,631	10,964
自己株式	△20	△21
その他の包括利益累計額	2,206	2,067
非支配株主持分	287	321
純資産合計	22,382	22,609
負債純資産合計	28,874	29,087

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第90期 期末 2017年4月 1日から 2018年3月31日まで	第91期 期末 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
売上高	20,168	21,761
売上原価	14,487	16,177
売上総利益	5,680	5,583
販売費及び一般管理費	4,461	4,469
営業利益	1,219	1,114
営業外収益	471	435
営業外費用	185	247
経常利益	1,504	1,302
特別利益	414	100
特別損失	1,620	174
税金等調整前当期純利益	298	1,227
法人税、住民税及び事業税	212	453
法人税等調整額	△42	40
当期純利益	128	734
非支配株主に帰属する当期純利益	41	37
親会社株主に帰属する当期純利益	87	696

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

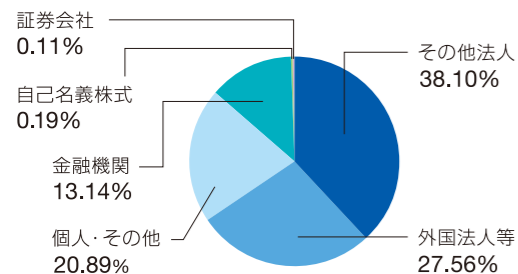
(単位:百万円)

科目	第90期 期末 2017年4月 1日から 2018年3月31日まで	第91期 期末 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,402	606
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,365	△2,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	△378	△375
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	9
現金及び現金同等物の増減額	△307	△1,804
現金及び現金同等物の期首残高	6,901	6,594
現金及び現金同等物の期末残高	6,594	4,789

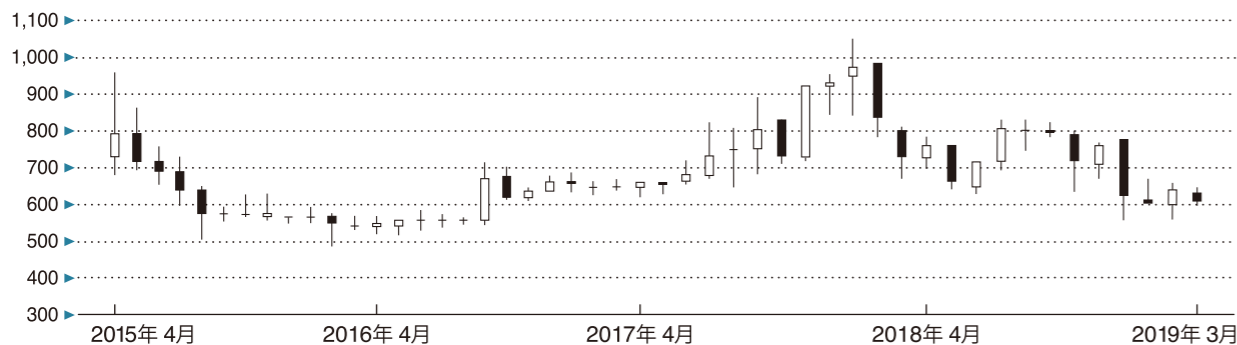
■ 株式の状況

発行可能株式総数	128,503,000株
発行済株式総数	33,061,003株
株主数	3,303名

■ 所有者別株式数分布状況



■ 株価の推移(円)



期末配当金 1株当たり **6円**

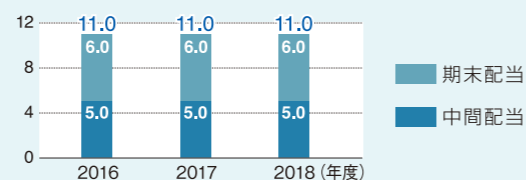
1. 期末配当金 1株当たり6円
2. 支払対象者 2019年3月31日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 2019年6月7日

■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.2
株式会社村田製作所	4,471	13.5
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	4,185	12.7
NOMURA PB NOMINEES TK1 LIMITED	2,366	7.2
NPBN-SHOKORO LIMITED	1,522	4.6
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.8
指月協友持株会	839	2.5
MSIP CLIENT SECURITIES	502	1.5
指月電機製作所自社株投資会	434	1.3

(注) 持株比率は、自己株式(63,870株)を控除して計算しております。

■ 1株当たりの配当実績 (単位:円)



会社概要

商号 株式会社指月電機製作所
 英文名称 SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
 本店所在地 〒662-0867
 兵庫県西宮市大社町10番45号
 TEL:0798-74-5821
 ホームページ <http://www.shizuki.co.jp/>
 創業年月日 1939年3月10日
 設立年月日 1947年9月1日
 資本金 5,001,745,595円
 グループ人員数 1,391名
 主要取扱業務

- コンデンサ及び関連機器・装置
- 電力機器・装置

の製造販売

営業拠点

- 東京支社
- 東京支店／関西支店／中部支店
- 仙台営業所／日立営業所
- 広島営業所／福岡営業所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	300,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	300,000千円	100.0

関連会社

社名	資本金	出資比率(%)
株式会社 村田指月FCソリューションズ	100,000千円	35.0

役員

取締役

取締役会会長	伊藤 薫*
取締役	足達 信章*
取締役	友松 哲也*
取締役	山本 則彦
取締役	鳥川 光春*
取締役	森 公利*
取締役	谷 和義*

*は執行役を兼任 ※は社外取締役

執行役

代表執行役社長	伊藤 薫
執行役副社長	足達 信章
常務執行役	友松 哲也
執行役	小田 敦
執行役	小山 義雄
執行役	相原 宏則

生産・販売子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0